

コロナ影響で県高総体棄権の岩手高ラグビー部

晴れ晴れノーサイド

八幡平市観光協会(米川次郎会長)は20日、同市松尾寄木の市ラグビー場で、新型コロナウイルス感染症の影響で県高総体を棄権した、盛岡市の岩手高ラグビー部のために「フレンドシップマッチ」を開催した。選手の無念を思い、試合を

させたいという県内のラグビー関係者の願いを受け実現。選手たちは、感謝の気持ちを全力のプレーに込めた。

同校と不来方高が20分ハーフで対戦。岩手高は前半に3トライを奪うなどリードして折り返したが、終盤



感謝を胸に全力プレーで攻め込む岩手高ラグビー部の選手

選手、感謝込め全力プレー

八幡平市観光協会
特別試合を企画

に逆転を許し、19-28で敗れた。試合後は健闘をたたえ合い、笑顔で集合写真を撮影。岩手高3年の佐々木琉聖主将は「悔しい気持ちを力にして、思い切ったプレーができた。この経験を今後の糧にしたい」と汗を拭いた。

同校は、5月20〜23日に開催された県高総体に出場を予定していた。19日には八幡平市に入り練習していたが、同校関係者の感染が確認されたため、試合前日に棄権を決断。突然の試合中止に涙を流した。

大会後、県内の高校やラグビー関係者から「岩手高の生徒に試合をさせたい」という声が高まり、市観光協会が日程を調整。感染拡大防止のため3校以上は集まらず不来方高のみの参加となったが、本大会の開催場所だった同ラグビー場での試合が実現した。

3年生の中には受験勉強のため、高校総体を「ラグビーに専念できる最後の大会」と考えていた生徒もいる。岩手高3年の中村元さんもその一人で「このような機会を与えてもらい本当に良かった。この経験は宝物です」と感謝した。

同校の田中館光監督は「いろんな人に支えられて試合ができていたのだという感謝の気持ちを忘れないうでほしい」と目を細めた。

(牛崎想也)